

## 海外の畜産物の需給動向

## 牛肉

## 米 国

## 韓国、中国向け輸出は堅調に推移

## 2月の牛肉輸出量、韓国、中国向けが増加する一方で日本向けは減少

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2021年2月の牛肉輸出量は11万3557トンとなり、前年同月比2.6%減とわずかに減少した（表1）。

主要輸出先別に見ると、首位の韓国向けが同6.6%増の3万264トンと好調に増加している。また、中国向けも同約14.8倍となる1万999トンと依然堅調に推移し、大幅に減少したカナダを抜いて輸出先として第4位になった。一方で、昨年12月までは輸出先として首位にあった日本向けは、同11.7%

減の3万66トンとかなり大きく減少した。

こうした状況について、USDAの「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook」では、以下のように分析している。

韓国向けの増加の背景としては、これまでの旺盛な需要に加え、牛群再構築中の豪州からの供給が限られていることが挙げられている。また、中国向けについては、米中経済貿易協定による市場アクセスが拡大されたことに加え、中国国内の豚肉供給不足から一部の消費者の志向が牛肉へシフトしたことで、引き続き高い牛肉需要が中国の牛肉輸入を支えていくであろうと予想している。一方、日本向けの減少については、米国産牛肉に対する

表1 主要輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 2月	2021年 2月	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
韓国	28,383	30,264	6.6%	26.7%	57,402	15.1%
日本	34,047	30,066	▲ 11.7%	26.5%	56,800	▲ 11.5%
メキシコ	15,417	11,855	▲ 23.1%	10.4%	26,423	▲ 19.8%
中国	744	10,999	1,379.1% (約 14.8倍)	9.7%	21,217	997.6% (約 11.0倍)
カナダ	10,718	8,185	▲ 23.6%	7.2%	20,068	▲ 7.5%
香港	4,998	5,940	18.9%	5.2%	10,458	▲ 18.3%
台湾	6,761	5,345	▲ 20.9%	4.7%	10,782	▲ 23.8%
その他	15,518	10,902	▲ 29.7%	9.6%	22,004	▲ 27.1%
合計	116,586	113,557	▲ 2.6%	100.0%	225,156	▲ 1.1%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

セーフガードの発動を回避するために通関数量を減らしたためであるとしている。結果的に3月18日からセーフガードは発動されたものの、4月17日には日米貿易協定3年目の関税引き下げスケジュールに基づき、米国産牛肉に対する輸入関税は25%に引き下げられた。

## フィードロット飼養頭数、引き続き高水準を維持

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) が2021年4月23日に公表した「Cattle on Feed」によると、3月のフィードロット導入頭数は前年同月比28.3%増の199万7000頭と前年同月を大幅に上回った。また、出荷頭数は同1.5%増の204万頭とわずかに

前年同月を上回った。

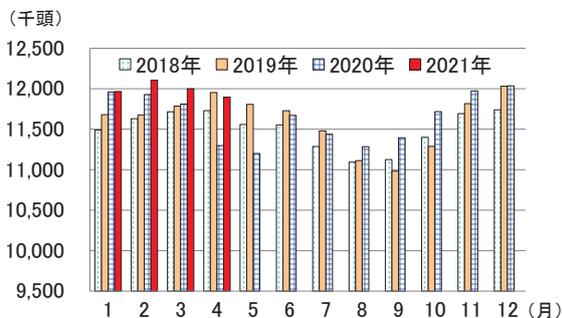
この結果、2021年4月1日現在のフィードロット飼養頭数は、同5.3%増の1189万7000頭となり、9カ月連続で前年同月を上回った(図1)。上昇傾向にある肥育牛価格(図2)を要因に市場出荷が進んでいるとみられ、4月は、前述の通り導入頭数に比べ出荷頭数が多かった。このため、前月比では10万3000頭減と減少傾向で推移しているものの、依然高い水準を維持している。

## 寒波の影響により3月のと畜頭数増加

USDA/NASSが2021年4月22日に公表した「Livestock Slaughter」によると、3月の牛と畜頭数は、前年同月比2.5%増の294万6400頭となった(図3)。2021年3月は、前年同月に比べて食肉処理日が1日多かったことに加え、2月の寒波により、中断されていたと畜が再開されたことが影響している。

USDAによると、3月のと畜頭数は増加したものの、第1四半期のと畜頭数は前年同期比1.9%減の810万9800頭、牛肉生産量は同0.5%減の312万7610トンとなった。

図1 フィードロット飼養頭数の推移

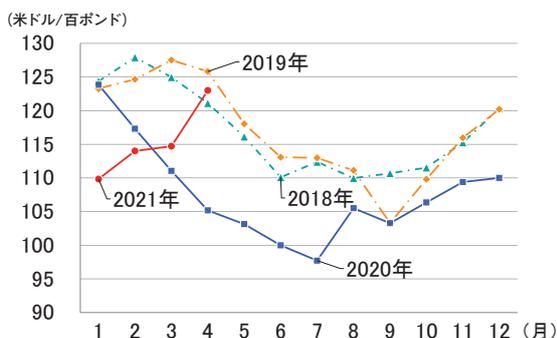


資料：USDA「Cattle on Feed」

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

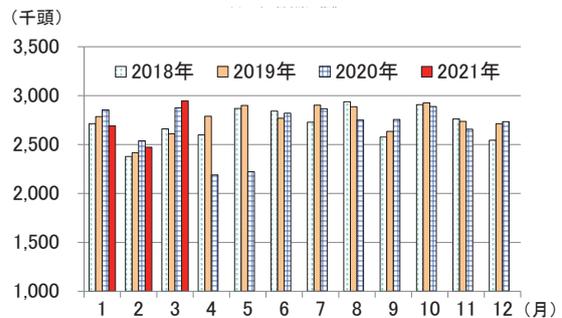
図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。

図3 牛と畜頭数の推移



資料：USDA「Livestock Slaughter」

注：連邦検査ベース。

(調査情報部 上村 照子)

## EUの牛肉価格は堅調

### EUの牛肉価格、前年同月同週比 7.7%高

EUの牛枝肉卸売価格は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大防止対策による外食需要などの減少の影響を大きく受け、2020年4月に急激に下落し、同年9月まで低迷が続いた（図4）。その後、わずかながら外食需要が回復するとともに、輸出向け需要やクリスマス需要、輸入量の減少などが後押しし、価格は回復傾向となった。さらに年明けも引き続き輸入には慎重な動きがある中、小売販売が堅調なことに加え、イースター需要などもあり、COVID-19拡大前を超える水準にまで価格を戻している。欧州委員会によると、直近の4月26日の週平均の参考価格（A/C/Z-R 3）<sup>（注）</sup>は、前週比同、前月比1.4%高、前年同月同週比7.7%高の100キログラム当たり375.0ユーロ（4万9875円：1ユーロ=133円）となった。

（注） 参考価格（A/C/Z-R 3）とは、EUにおける牛枝肉卸売価格の指標的な価格であり、A=若雄牛（12～23カ月齢）、C=去勢牛（12カ月齢以上）、

Z=若齢牛（8～11カ月齢）のうち、R=枝肉の格付けが上（6段階評価の上から4番目）、3=脂肪の沈着度合が平均的（5段階評価の上から3番目）なものの加重平均価格である。

### 2021年の牛肉生産量は1.0%減の見込み

欧州委員会によると、2020年の牛肉生産量（EU27カ国）は、飼料価格の高止まりによる収益性の低下を背景に2018年をピークとした牛群縮小傾向が継続していることに加え、COVID-19の影響による価格低迷などから、前年比1.1%減の689万8000トンとなった（図5）。加盟国別に見ると、EU域内で最大生産国のフランスが同0.4%増、第5位のアイルランドが同2.2%増であったものの、第2位から第4位では、ドイツが同1.4%減、イタリアが同6.1%減、スペインが同2.6%減とそれぞれ減少した（表2）。

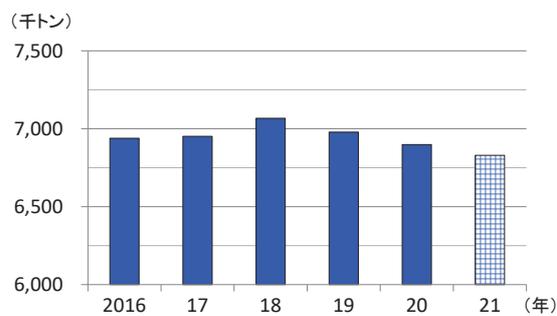
2021年は、引き続き牛群縮小傾向が継続していることやCOVID-19の影響による外食需要の停滞により、同1.0%減の683万トンとさらに減少が見込まれている。

図4 牛枝肉卸売価格の推移 (EU平均)



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」  
注：EU参考価格（A/C/Z-R 3）。

図5 牛肉生産量の推移 (EU)



資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook - spring 2021」

注1：枝肉重量ベース。  
注2：2021年は推定値。

表 2 主要生産国別牛肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2019年	2020年	前年比 (増減率)
フランス	1,428	1,435	0.4%
ドイツ	1,106	1,091	▲1.4%
イタリア	780	732	▲6.1%
スペイン	695	677	▲2.6%
アイルランド	620	633	2.2%
ポーランド	560	559	▲0.2%
オランダ	424	433	2.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：枝肉重量ベース。

## 2021年の牛肉輸出量は増加の見込み

2020年の牛肉輸出量（EU27カ国）は前年比1.8%増となった(表3)。香港、カナダ、日本、ノルウェー向けなどを中心に輸出が堅調であったことが貢献している。ただし、Brexitの影響により英国向け輸出量は減少した。2021年の輸出量も域内の景気回復の見通しの不透明感から輸出機会を探ることに

なり、引き続き増加するとみられている。

一方、2020年の牛肉の輸入量は外食需要が減少したことから同20.6%減と大幅に減少した。EUの輸入先である英国やブラジルでは、EU向け輸出量の減少分を中国などアジア諸国へ振り分けた。2021年の輸入量は外食産業の営業が徐々に回復するとの想定から同2.0%増とわずかながらも増加が見込まれている。

表 3 牛肉輸出入量および消費量の推移

(単位：千トン)

	2019年		2020年		2021年	
		前年比 (増減率)		前年比 (増減率)		前年比 (増減率)
輸入量	386	3.9%	307	▲20.6%	313	2.0%
輸出量	577	▲3.0%	587	1.8%	593	1.0%
消費量	6,788	▲0.8%	6,618	▲2.5%	6,549	▲1.0%
1人当たり消費量 (kg)	10.6	▲1.0%	10.3	▲2.6%	10.2	▲1.1%

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook - spring 2021」

注1：枝肉重量ベース。  
注2：2021年は推定値。

(調査情報部 国際調査グループ)

## 豪州

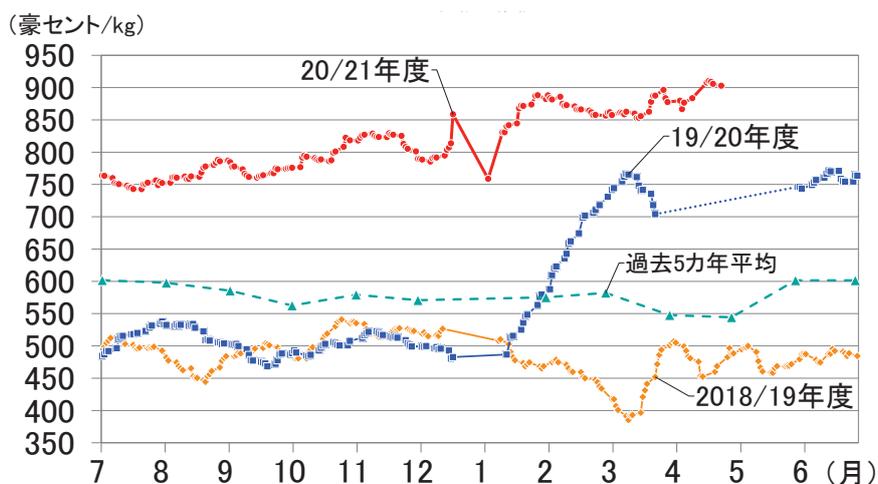
### 肉牛取引価格が900豪セントを超え、過去最高を記録

#### EYCI価格は900豪セントの大台を突破

豪州食肉家畜生産者事業団 (MLA) によ

ると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標 (EYCI) 価格は、4月20日に1キログラム当たり910.25豪セント (783円：1豪ドル=86円) となり、過去最高を

図6 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

記録した（図6）。

MLAは、最近の降雨により牧草の生育状況が良好であるため、フィードロットや一般的な肥育農家からの牛の需要が高いことや、過去の干ばつにより高重量の出荷適期の牛が不足していることから、依然として若齢牛が高値で取引されているが、年内には出荷適期の牛のと畜頭数は回復すると予想している。現在は牛群再構築の動きを背景にEYCI価格は依然として上昇基調にあるが、豪州の畜産市場調査会社であるトーマス・エルダー・マーケットツは、現在のEYCI価格をけん引している牧草肥育農家の損益分岐点である、1キログラム当たり920～930豪セント（791～800円）を相場の上限額と見込んでいる。また、現地関係者からは、牛群再構築が完了すると見込まれる今後2～3年の間は、高値水準が維持されるとの見方も出ている。

### 3月の日本向け牛肉輸出量は前年同月比25%減

豪州農業・水・環境省（DAWE）によると、2021年3月の牛肉輸出量は、現在、干ばつからの回復により牛群再構築が進んでおり、と畜頭数が引き続き低水準で推移していることから、8万3438トン（前年同月比11.2%減）となった（表4）。

輸出先別に見ると、豪州産牛肉の最大の仕向け先である日本向けは、前年同月比24.8%減の2万130トンと大幅に減少している。MLAによると、日豪EPAや環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定（CPTPP）に基づき、4月から豪州産牛肉の関税が段階的に引き下げられることもあり、通常、毎年3月の日本向け輸出量はやや抑制される傾向にあるとしている。なお、2021年度のCPTPPに基づく豪州から日本向けの冷蔵・冷凍牛肉の関税は、前年度

表 4 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～3月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
日本	26,751	20,130	▲ 24.8%	50,549	▲ 26.5%
韓国	13,094	15,682	19.8%	36,213	0.5%
中国	18,328	14,929	▲ 18.5%	35,772	▲ 36.2%
米国	17,182	12,680	▲ 26.2%	29,521	▲ 43.6%
東南アジア	9,516	10,646	11.9%	23,858	▲ 10.2%
中東	2,360	2,820	19.5%	7,936	14.7%
EU	616	610	▲ 1.0%	2,093	▲ 26.9%
その他	6,108	5,942	▲ 2.7%	13,917	▲ 16.0%
合計	93,954	83,438	▲ 11.2%	199,859	▲ 24.9%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、パレチン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

の25.8%から25.0%となる。

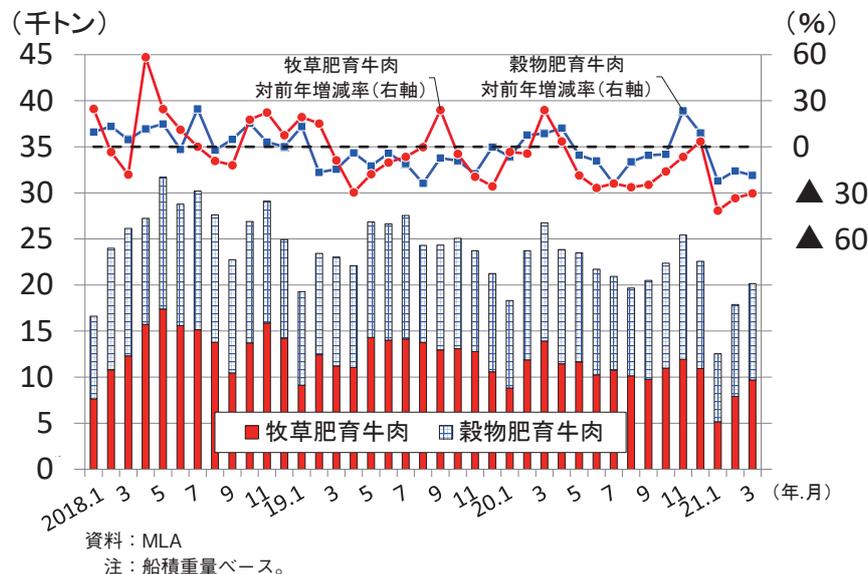
また、3月の日本向け輸出量の構成比を見ると、穀物肥育牛肉が51.9%、牧草肥育牛肉が48.1%となっており、今年に入ってから、牧草肥育牛肉の割合が上昇傾向にある(図7)。

他の主要な輸出先でも同様に、豪州からの

牛肉輸出量は前年と比べて減少しているが、

日本向けに次いで3月の輸出量が多い韓国向けは、1万5682トン(同19.8%増)と大幅に増加した。また、中国向けは、1万4929トン(同18.5%減)となったが、前月の1万1676トンからは大幅に増加(前月比27.9%増)している。米国向けは1万2680トン(前

図 7 日本向け牛肉輸出量と増減率の推移



資料：MLA

注：船積重量ベース。

年同月比26.2%減)と大幅に減少した。EU向けは610トン(同1.0%減)と、前年同月をわずかに下回った。

MLAによると、豪州政府は現在、イスラエルやスイス、ノルウェー、アイスランド、

リヒテンシュタインとのFTA締結を検討しているとしており、牛肉輸出先の多角化を図る動きとなる可能性もある。

(調査情報部 国際調査グループ)

## 豚 肉

### 米 国

## 総飼養頭数の減少と需要増により豚肉卸売価格は上昇

### 12～2月の総飼養頭数、前年同期比1.8%減

米国農務省全国農業統計局(USDA/NASS)の「Hogs and Pigs」(四半期報告)によると、2021年3月1日時点の総飼養頭数は、繁殖豚頭数、肥育豚頭数ともに減少したことで全体では7477万3000頭(前年同期比

1.8%減)となった(表5)。12～2月期の分娩母豚頭数、産子数もともに減少しており、全体的に豚群が縮小傾向となっている。USDAによると、生産者の利益が少ないことに加え、母豚価格の大幅な上昇から生産者が繁殖豚を導入しにくくなっていることがその背景にあるとしている。

表5 豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
総飼養頭数(3月1日時点)	74,661	76,179	74,773	▲1.8%
繁殖豚	6,349	6,375	6,215	▲2.5%
肥育豚	68,313	69,804	68,558	▲1.8%
50ポンド(23キログラム)未満	21,373	21,571	21,288	▲1.3%
50～119ポンド (23～53キログラム)	19,168	19,353	19,118	▲1.2%
120～179ポンド (54～81キログラム)	15,001	15,086	14,705	▲2.5%
180ポンド(82キログラム)以上	12,771	13,793	13,446	▲2.5%
分娩母豚頭数(12～2月)	3,099	3,068	3,041	▲0.9%
産子数(12～2月)	33,163	33,745	33,270	▲1.4%
1腹当たり産子数(12～2月)(頭)	10.70	11.00	10.94	▲0.5%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

## 豚肉卸売価格は堅調に推移

2021年3月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー<sup>(注)</sup>）は、前年同月比39.2%高の100ポンド当たり101.25米ドル（1キログラム当たり246円：1米ドル=110円）と大幅に上昇している。USDAは、市場への出荷頭数の減少から豚肉生産量が減少していることに加え、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連の規制を受けて家庭内での食事の機会が増え、特に朝食でベーコンの利用が多いという家庭内需要の高まりやホテルやレストランなどフードサービス需要も徐々に回復してきたことを要因としている（図8）。今後も豚肉供給量は減少が見込まれる一方で、国内外問わず高い需要が想定されるため、豚肉卸売価格は引き続き堅調に推移すると予測される。

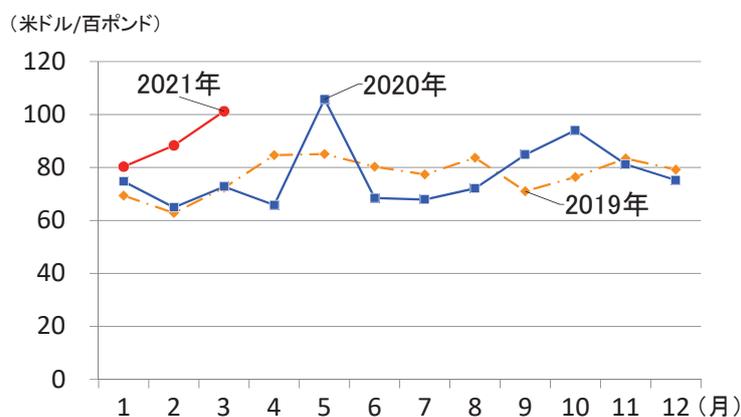
(注) カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

## 2月の豚肉輸出量、前年同月比10.1%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）の「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年2月の豚肉輸出量は26万8500トン（前年同月比10.1%減）と前年同月をかなりの程度下回った（表6）。USDAは、米国産豚肉の価格が他の豚肉輸出国に比べて高いことが、海外市場の需要者の購買意思決定に影響を与えた可能性があるとして分析している。

輸出先別に見ると、中国・香港向けは大幅に増加した前年から大きく落ち込んだ（同28.5%減）ものの、輸出量全体に占める割合は23.9%と引き続き最大の輸出先となっている。また、注目すべき点として、フィリピン向けが同国内でのアフリカ豚熱の発生に伴い、同220.5%増と大幅に増加している。USDAは、フィリピン向けは輸出量全体に占める割合としては大きくないものの（3.1%）、同国政府が豚肉の輸入関税を引き下げたことから、同国は今後も米国産の輸入を加速させる可能性があるとしている。

図8 豚肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注：カットアウトバリュー。

表 6 米国の輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 2月	2021年 2月	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年	前年同期比
					(1~2月)	(増減率)
中国・香港	89.8	64.2	▲ 28.5%	23.9%	130.0	▲ 28.5%
メキシコ	62.7	57.9	▲ 7.6%	21.6%	124.4	▲ 6.7%
日本	49.8	44.9	▲ 9.8%	16.7%	90.7	▲ 3.8%
カナダ	21.4	21.2	▲ 0.8%	7.9%	41.9	▲ 2.1%
韓国	23.8	19.2	▲ 19.3%	7.1%	41.9	▲ 9.6%
コロンビア	8.0	12.1	50.4%	4.5%	20.7	26.4%
豪州	11.8	10.2	▲ 13.7%	3.8%	19.8	▲ 25.1%
フィリピン	2.6	8.2	220.5% (約 3.2 倍)	3.1%	13.1	188.0% (約 2.9 倍)
その他	28.6	30.5	6.5%	11.4%	60.9	14.0%
合計	298.5	268.5	▲ 10.1%	100.0%	543.4	▲ 9.3%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 上村 照子)

## カナダ

### 豚肉輸出量、フィリピン向けが大幅増加

#### 豚総飼養頭数、3年ぶりに増加

カナダ統計局 (Statistics Canada) によると、2021年1月1日現在の豚総飼養頭数は1402万5000頭（前年比0.4%増）と3年ぶりに前年をわずかに上回った（表7）。内訳を見ると、繁殖豚は同1.0%増の125万

6900頭と前年をわずかに上回り、肥育豚は前年並みの1276万8100頭となった。重量別では、81キログラム以上の区分が同4.3%増となった。

また、子豚生産は増加傾向で推移しており、2020年下半期（7～12月）の分娩母豚頭数は前年同期比2.8%増の126万1300頭、

表 7 豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
繁殖豚	1,259.5	1,253.5	1,244.4	1,256.9	1.0%
肥育豚	12,910.5	12,721.5	12,725.6	12,768.1	0.3%
23kg 未満	5,190.8	5,180.3	5,220.8	5,127.4	▲ 1.8%
23～53kg	2,551.1	2,389.1	2,427.7	2,512.9	3.5%
54～80kg	2,549.5	2,519.2	2,514.8	2,454.8	▲ 2.4%
81kg 以上	2,619.1	2,632.9	2,562.3	2,673.0	4.3%
合計	14,170.0	13,975.0	13,970.0	14,025.0	0.4%

資料：Statistics Canada

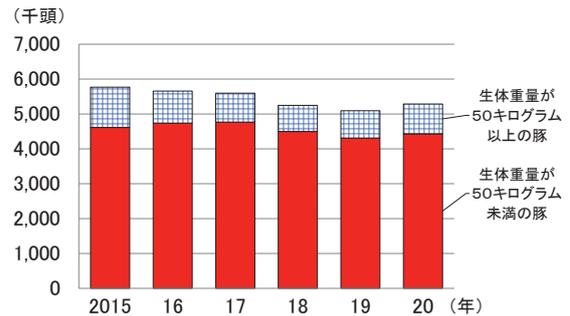
注：各年1月1日現在。

産子数は同2.7%増の1693万9100頭といずれも前年同期を上回った（カナダ統計局）。

## 米国向け生体豚輸出頭数、前年比3.8%増

カナダ統計局によると、2020年の米国向け生体豚輸出頭数（繁殖豚を除く。以下同じ）は528万7200頭（前年比3.8%増）となり、5年ぶりに前年を上回った（図9）。内訳を見ると、生体重量が50キログラム未満の豚（肥育用豚）は同2.8%増の443万900頭、50キログラム以上の豚（と場直行豚など）は同9.6%増の85万6300頭となった。カナダでは輸出される生体豚のほぼ全量が米国向けとなっており、米国内の豚飼養頭数減少を受けて前年から増加した。USDAは、肥育用豚輸出の増加要因として、米国内での豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の発生なども一因とみている。

図9 生体豚の米国向け輸出頭数の推移



資料：Statistics Canada

注1：繁殖豚を除く。

注2：生体重量が50キログラム以上は主にと場直行豚、50キログラム未満は肥育用豚である。

## 1～2月の豚肉輸出量、前年同期比2.7%増

カナダ統計局によると、2021年1～2月の輸出量は19万4000トン（前年同期比2.7%増）とわずかに増加した（表8）。輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは、現地での豚肉生産が回復傾向となっていることなどから、5万8800トン（同

表8 輸出先別豚肉輸出量

（単位：千トン）

	2020年 (1～12月)			2021年 (1～2月)		2021年 2月	
	前年比 (増減率)	シェア	前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)	前年同月比 (増減率)		
中国	526.6	157.1%	44.3%	58.8	▲23.0%	29.9	▲28.5%
米国	214.9	▲3.7%	18.1%	36.6	2.2%	17.5	▲0.6%
日本	222.0	0.4%	18.7%	33.3	▲9.5%	15.9	▲15.4%
フィリピン	36.6	▲10.4%	3.1%	21.4	570.0% (約6.7倍)	13.1	479.5% (約5.8倍)
メキシコ	69.0	▲35.0%	5.8%	15.2	9.8%	6.5	▲7.4%
韓国	31.1	▲20.0%	2.6%	6.9	31.9%	3.5	80.1%
ベトナム	22.2	124.3%	1.9%	7.4	9.0%	3.5	16.7%
台湾	17.1	▲58.0%	1.4%	4.5	169.8%	2.6	180.1%
香港	7.2	▲36.1%	0.6%	0.8	▲4.4%	0.3	▲33.5%
ウクライナ	4.9	▲8.5%	0.4%	0.5	▲56.2%	0.0	▲94.3%
その他	37.8	▲40.8%	3.2%	8.8	19.7%	4.3	▲1.8%
合計	1,189.3	23.1%	100.0%	194.0	2.7%	97.2	▲1.5%

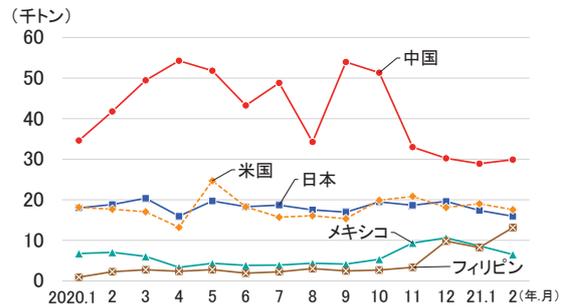
資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

23.0%減) となった。次いで多い米国、日本向けは近年拮抗して推移しており(図10)、それぞれ3万6600トン(同2.2%増)、3万3300トン(同9.5%減)となった。フィリピン向けは前年同期比約6.7倍の2万1400トンと急増し、4番手の輸出先に躍り出た。報道によると、同国では、アフリカ豚熱の流行による豚肉生産量の減少を受けて供給不足が続いており、豚肉価格が高騰している。こうした状況から、フィリピン政府は4月に輸入豚肉の関税率の引き下げなどを実施している。

図10 主要輸出先別豚肉輸出量の推移



資料：Statistics Canada  
 注1：HSコード0203。  
 注2：製品重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

## 中国

### 中国国内の豚肉生産は回復基調で推移

#### 豚飼養頭数は6期連続で増加

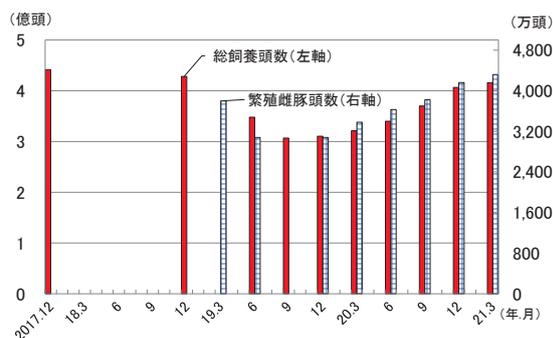
中国国家統計局によると、2021年3月末時点の総飼養頭数は前年同月比29.5%増の4億1595万頭と6期連続で増加し、アフリカ豚熱発生前の2017年末時点の94.2%まで回復している。うち、繁殖雌豚頭数は同27.7%増の4318万頭となった(図11)。中国農業農村部は、政府による種豚の増頭対策、

豚舎の増改築に対する支援策や養豚農家の経営収支改善などの効果もあり、2021年7月ごろまでには総飼養頭数がアフリカ豚熱発生前の水準に回復すると分析している。

#### 直近の豚と畜頭数は落ち着くも、引き続き前年対比増で推移

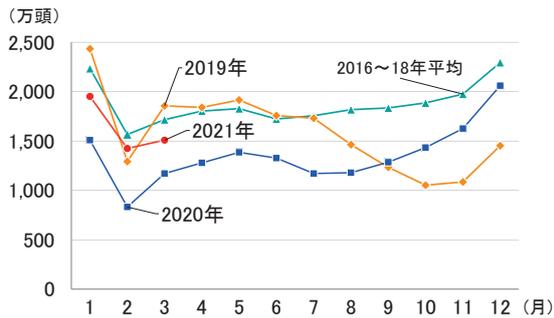
2021年2、3月の豚と畜頭数は、いずれも1500万頭前後と、新年や春節の連休の豚肉の需要期を過ぎて落ち着きを見せている(図12)。ただし、アフリカ豚熱および新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けた前年同月との比較では、飼養頭数の増加を背景に、2月が71.2%増(1425万頭)、3月が28.8%増(1509万頭)と大幅に回復している。

図11 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家統計局  
 注：四半期ごとの公表値。

図 12 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部  
注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

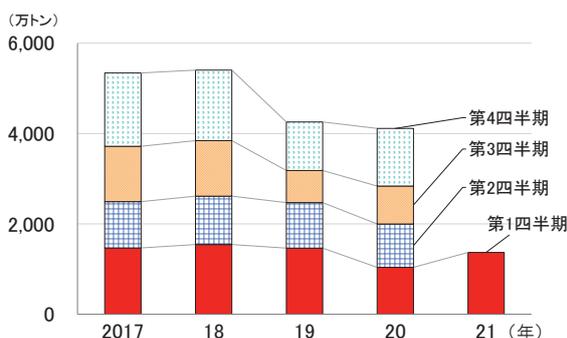
## 豚肉生産量は前年同期を大幅に上回る

中国国家统计局によると、2021年第1四半期（1～3月）の豚肉生産量は前年同期比31.9%増の1369万トンとなり、供給量は大幅に回復した（図13）。これは2020年前半に多くの企業で規模拡大による飼養頭数の増加が進んだことで、昨今の市場流通量の増加につながったことが一因とみられている。

## 子豚価格は上昇傾向も豚肉価格は直近2カ月下落

豚肉供給量が大幅に回復する中で、直近2カ月の豚肉価格も、豚肉の需要期を過ぎて落ち着きを見せ、2021年3月は前月比10.1%

図 13 豚肉生産量の推移



資料：中国国家统计局

図 14 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

安の1キログラム当たり45.8元（788円：1元=17.2円）となった（図14）。しかし、ここ最近の動きを見ると、需給状況により上下するものの、2019年後半から豚肉価格はおおむね横ばいで推移している。一方、子豚価格は養豚農家の増産基調などを背景に、昨年後半の下落傾向から反転しおおむね上昇傾向にあり、2021年3月は前月比2.7%高の1キログラム当たり93.3元（1605円）となった。

中国農業科学院は、2021年第四半期以降、豚肉価格は生産規模の回復・拡大により、供給が安定することで、アフリカ豚熱発生前の水準にまで徐々に低下するとし、また子豚価格も同様に、今後は下落傾向で推移すると見込んでいる。

## 輸入量は引き続き増加も、2021年の輸入量は前年を下回ると予測

豚肉輸入量は引き続き高水準で推移しており、2021年1～2月の輸入量は前年同期比26.7%増の68万9288トンとなった（表9）。輸入先を見ると、2020年9月にアフリカ豚熱が発生したドイツからの輸入が大幅に減少し、代替としてスペインをはじめ、ブラジルやカナダからの輸入が大幅に増加した一方、米国からの輸入は20年下半期の減少傾向を

引きずり、前年同期を大幅に下回った。

春節の連休明けは例年、豚肉の需要が低下する時期ではあるものの、中国国内の豚肉価格が比較的高い水準にある中で、輸入量の増

加が続いている。中国農業科学院によると、今後の国内での豚肉供給量の増加に伴い、2021年の輸入量は前年を下回ると予測されている。

表9 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1~2月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	23.8	22.0	38.2	93.4	22.9	128.8% (約2.3倍)
米国	16.6	8.6	24.5	69.6	8.1	▲23.2%
ブラジル	4.9	15.0	22.2	48.1	7.6	73.5%
カナダ	16.7	16.0	17.2	41.1	5.6	160.1% (約2.6倍)
デンマーク	8.9	7.2	16.4	36.0	5.1	0.6%
ドイツ	21.2	22.8	32.3	46.2	0.1	▲98.8%
その他	29.6	27.7	48.6	96.1	19.5	48.3%
合計	121.7	119.3	199.4	430.4	68.9	26.7%

資料：「Global Trade Atlas」  
注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

## 牛乳・乳製品

E U

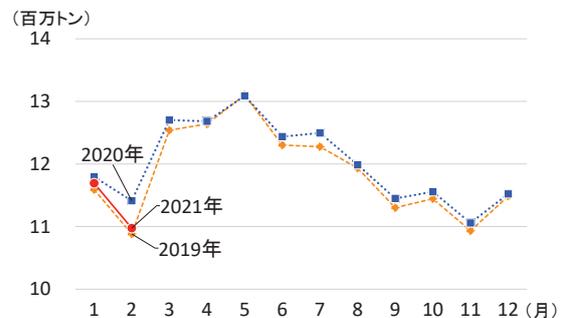
### 2021年の生乳出荷量は前年比1.0%増の見込み

#### 2021年の1頭当たりの生乳生産量は増加の見込み

欧州委員会によると、2021年2月の生乳出荷量（EU27カ国）は、前年同月をやや下回る1097万5730トン（前年同月比3.8%減）となった（図15）。

2月の出荷量を国別に見ると、イタリア（同2.6%増）、アイルランド（同4.4%増）が前年同月を上回ったものの、ドイツ（同5.7%

図15 生乳出荷量の月別推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値ベース。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表 10 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2020年 2月	2021年 2月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～2月)	
					前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,650	2,498	▲ 5.7%	5,229	▲ 3.7%
フランス	2,074	1,951	▲ 5.9%	4,070	▲ 4.7%
オランダ	1,143	1,082	▲ 5.3%	2,270	▲ 3.3%
イタリア	984	1,010	2.6%	2,059	2.6%
ポーランド	1,002	964	▲ 3.8%	2,014	▲ 1.6%
スペイン	600	582	▲ 2.9%	1,202	▲ 2.0%
デンマーク	452	429	▲ 5.0%	907	▲ 2.5%
アイルランド	341	356	4.4%	551	5.3%
ベルギー	357	353	▲ 1.2%	723	▲ 1.2%
その他	1,811	1,750	▲ 3.4%	3,643	▲ 1.4%
合計	11,413	10,976	▲ 3.8%	22,668	▲ 2.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値ベース。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

減)、フランス(同5.9%減)、オランダ(同5.3%減)、ポーランド(同3.8%減)、スペイン(同2.9%減)、デンマーク(同5.0%減)、ベルギー(同1.2%減)などの主要生産国では、前年同月を下回った(表10)。

欧州委員会は3月30日に公表した農畜産物の短期的需給見通しの中で、乳用牛飼養頭数は減少し続けているとし、2021年初頭の未經産乳用牛の飼養頭数は過去10年間で最も少なくなったとしている。しかし、2021年の生乳出荷量は、飼養頭数のわずかな減少が見込まれる一方で、1頭当たりの生乳生産量の増加により、前年比1.0%増が見込まれている。

### 乳製品価格は引き続き上昇傾向

欧州委員会によると、バター価格は2021年に入り上昇傾向となっている。同委員会が毎週公表するバターの取引価格は、4月4日に100キログラム当たり400ユーロ(5万3200円：1ユーロ=133円)となり、

2019年6月9日以来の400ユーロ台の水準に回復した(図16)。また、バター以外の乳製品価格も同様に上昇傾向となっている。この要因として同委員会は、需給見通しの中でEU域外からの乳製品需要の高まりやEU域内での好調な乳製品消費を挙げている。

こうした中、EUの平均生乳取引価格は、2020年後半から上げ基調に転じており、2021年に入ってから100キログラム当たり34ユーロ(4522円)を超える水準で推移し、3月は19カ月ぶりに前年同月を上回る同34.76ユーロ(4623円、前年同月比

図16 乳製品価格の推移

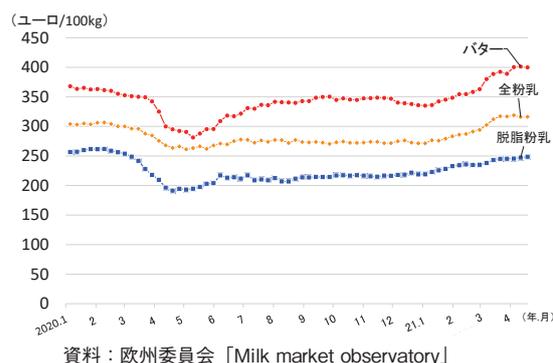
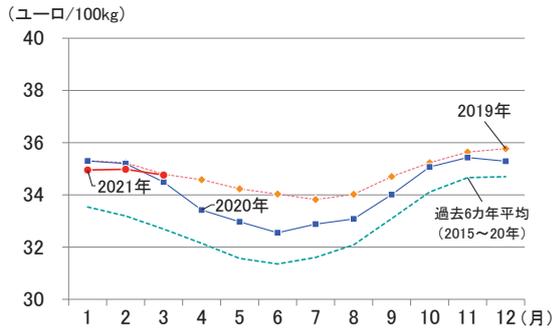


図 17 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」  
注：データが未公表のルクセンブルグを除く。

0.8%高) となった (図17)。

## 2020年のチーズの日本向け輸出量は前年からかなり大きく増加

欧州委員会によると、2020年のEU域外向けの乳製品輸出量は、全粉乳（34万4799トン）が前年比9.3%増、バター（26万1368トン）が同9.0%増、チーズ（140万110トン）が同3.9%増といずれも前年を上回った一方で、脱脂粉乳（83万694トン）は同12.1%減と前年を下回った（表11）。業界団体によると、2020年の脱脂粉乳の輸

出量が前年比減となったのは、EUの介入在庫の放出により輸出が増加した2019年の反動によるものとし、輸出自体は堅調に推移したとしている。

また、EU域外向けのチーズの輸出量は、米国との航空機に対する補助金をめぐる貿易摩擦の影響<sup>(注)</sup>で同国向けが前年をかなりの程度下回る一方、日本向けは日EU経済連携協定の効果もあり、輸出量は前年をかなり大きく上回り、英国に次ぐ第2位の輸出先となった。

同委員会は、需給見通しの中でEU域内の乳製品価格は上昇傾向にあるものの、バターや脱脂粉乳は国際競争力を維持していくとしている。2021年の輸出量について、バターは輸出需要が続くことから前年比4.0%増、脱脂粉乳は東南アジアなどからの需要により同6.0%増と見込んでいる。

(注) 海外情報「英国農業園芸開発公社による米国の対EU追加関税措置によるEU産乳製品への影響の分析」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_002530.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002530.html))を参照されたい。

表 11 主な品目別輸出量の推移

(単位：千トン)

輸出先	脱脂粉乳			輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳			輸出先	バター		
	2019年	2020年	前年比(増減率)		2019年	2020年	前年比(増減率)		2019年	2020年	前年比(増減率)		2019年	2020年	前年比(増減率)
中国	122	121	▲0.8%	英国	506	492	▲2.9%	オマーン	41	48	17.7%	英国	65	60	▲7.7%
アルジェリア	94	119	25.6%	日本	114	128	12.7%	アルジェリア	19	38	101.6%	米国	33	38	14.0%
インドネシア	71	45	▲36.6%	米国	131	117	▲10.7%	英国	34	30	▲10.6%	サウジアラビア	9	18	95.9%
エジプト	56	44	▲21.7%	スイス	62	69	11.6%	ナイジェリア	19	21	13.7%	中国	10	15	41.9%
ナイジェリア	43	44	2.2%	韓国	42	53	25.9%	中国	15	16	3.2%	モロッコ	6	10	59.3%
その他	559	458	▲18.1%	その他	493	541	9.8%	その他	188	191	1.9%	その他	116	121	4.3%
合計	946	831	▲12.1%	合計	1,348	1,400	3.9%	合計	315	345	9.3%	合計	240	261	9.0%

資料：欧州委員会「Milk market observatory」

(調査情報部 小林 智也)

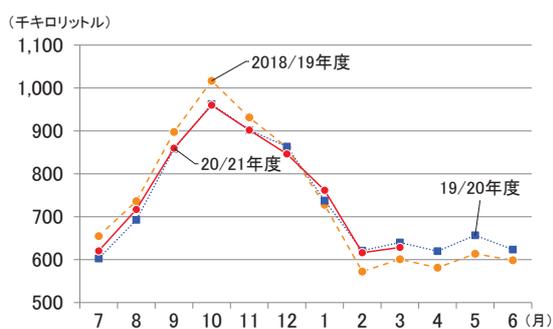
## 豪州

# 乳製品輸出量、主要4品目いずれも前年同月を上回る

## 3月の生乳生産量は2カ月連続で前年同月をわずかに下回る

デーリー・オーストラリア（DA）によると、2021年3月の生乳生産量は62万8434キロリットル（64万7287トン相当、前年同月比1.8%減）と前年同月をわずかに下回った（表12、図18）。

図18 生乳生産量の推移



資料：DA

注：年度は7月～翌6月。

これを州別に見ると、酪農主産地であるビクトリア州は36万4241キロリットル（37万5168トン相当、同3.5%減）、タスマニア州は8万2441キロリットル（8万4914トン相当、同2.6%減）といずれも減少した（表12）。また、2020/21年度（7月～翌6月）3月までの累計では、693万7526キロリットル（714万5651トン相当、同0.7%増）と前年同期をわずかに上回った。

DAは3月16日、今期（2020/21年度）の生乳生産量について、牧草の生育にとって良好な天候が続いたことから増産が期待されるが、恒常的な労働力不足、離農、子牛価格の高騰による飼養頭数回復の遅れおよび放牧環境の改善に伴う穀物飼料給餌量の減少などによる1頭当たり乳量の低下などで、対前期比「-1%から1%の間」になるとの見込みを発表した。

表12 州別の生乳生産量の推移

（単位：千キロリットル）

州名	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌3月)	前年同期比 (増減率)
ビクトリア州	377.5	364.2	▲ 3.5%	4,446.4	0.4%
ニューサウスウェールズ州	82.6	84.9	▲ 2.8%	824.4	2.0%
タスマニア州	84.7	82.4	▲ 2.6%	772.3	1.7%
南オーストラリア州	41.4	44.1	▲ 6.7%	383.6	2.5%
西オーストラリア州	29.3	29.7	▲ 1.5%	273.5	▲ 0.9%
クイーンズランド州	24.6	23.0	▲ 6.4%	237.3	▲ 3.4%
合計	640.0	628.4	▲ 1.8%	6,937.5	0.7%

資料：DA

## 脱脂粉乳、全粉乳、バターおよびバターオイルの輸出量が大幅に増加

DAが発表した2021年2月の主要乳製品4品目の輸出量は、すべての品目で前年同月を上回った。中でもチーズ以外の3品目（脱脂粉乳、全粉乳、バターおよびバターオイル）は、中国向け輸出の伸びなどを反映し、いずれも前年同月を大幅に上回った（表13、図19）。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、前年同月比94.3%増の1万7324トンと大幅に増加し、今期（2020/21年度）の2月までの累計でも前年同期比17.5%増の7万6898トンと

なり大きく増加した。さらに、バターおよびバターオイルは前年同月比274.1%増の2268トン、年度累計でも前年同期比106.4%増の1万5175トンといずれも大幅に増加した。全粉乳は、前年同月比107.2%増の4858トンと3カ月ぶりに大幅な増加に転じたが、年度累計では、1月までの累計より減少率が縮小したものの前年同期比2.1%減の3万1042トンとわずかな減少となった。チーズも前年同月比は5.6%増の1万2825トンとやや増加したものの、年度累計では前年同期比3.8%減の9万8711トンとやや減少した。

表 13 乳製品輸出量の推移

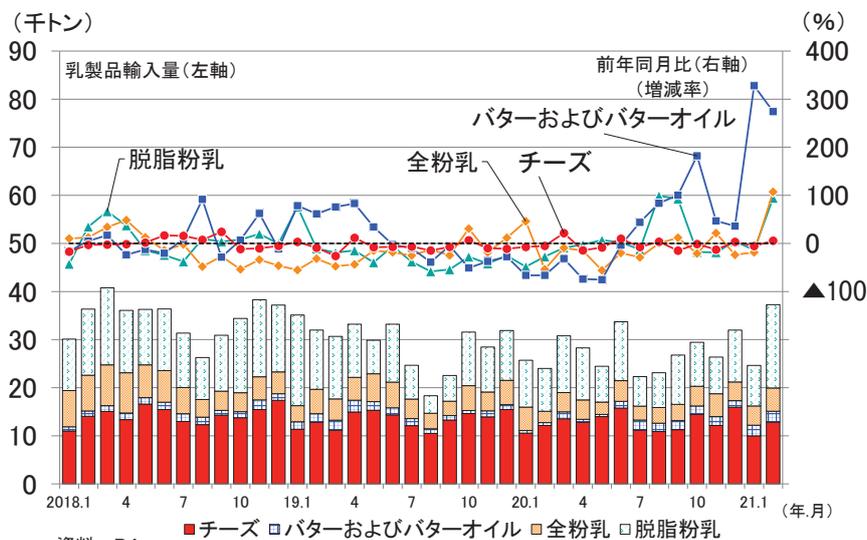
(単位：トン)

品目	2020年 2月	2021年 2月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌2月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	8,916	17,324	94.3% (約 1.9 倍)	76,898	17.5%
全粉乳	2,345	4,858	107.2% (約 2.1 倍)	31,042	▲ 2.1%
バターおよび バターオイル	606	2,268	274.1% (約 3.7 倍)	15,175	106.4% (約 2.1 倍)
チーズ	12,145	12,825	5.6%	98,711	▲ 3.8%

資料：DA

注：製品重量ベース。

図 19 乳製品輸出量および増減率の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 阿南 小有里)

## 生乳生産は前年を上回り、乳製品輸出も増加

### 3月の生乳生産量、前年同月からかなりの程度増加

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021年3月の生乳生産量は184万4000トン（前年同月比9.8%増）と前年同月をかなりの程度上回り、2020/21年度（6月～翌5月）の累計も前年同期比1.6%増で推移している（図20）。現地報道によると、この増産は、一部地域で寒波や干ばつがあったものの、全土的には降雨により牧草が順調に成長したためとしている。また、例年であ

れば5月に終了する搾乳期間を延長する動きがあることから、今年度の生産総量も増産が見込まれている。

### 3月の中国向け輸出量が大幅に増加

ニュージーランド統計局（Statistics NZ）によると、2021年3月の乳製品主要4品目（脱脂粉乳、全粉乳、バターおよびバターオイル、チーズ）の輸出量は、脱脂粉乳以外の品目で前年同月を大幅に上回った（表14、図21）。これは、主要消費国である中国国内での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による外出規制が大幅に緩和され、外食需要などが回復してきたことから、同国向け輸出量が大幅に増加したことによる。

品目別に見ると、脱脂粉乳は3万1554トン（前年同月比5.5%減）と4カ月連続で減少した。マレーシア向け、フィリピン向けおよび日本向けが大幅に減少したものの、主要輸出先である中国向けが1万2935トン（同49.6%増）と大幅に増加したため、全体では減少の勢いは後退した。

図20 生乳生産量の推移

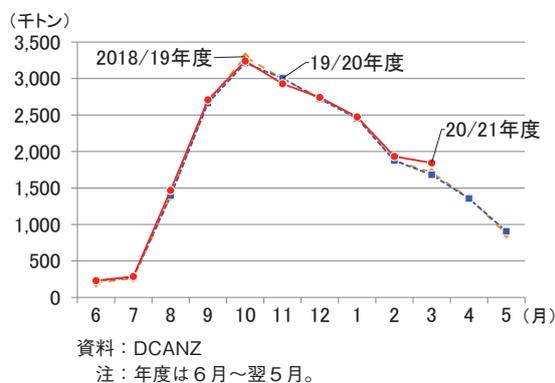


表14 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品名	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌3月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	33,378	31,554	▲5.5%	246,375	▲14.0%
全粉乳	133,204	164,603	23.6%	1,226,012	6.7%
バターおよび バターオイル	36,290	43,461	19.8%	318,426	▲3.9%
チーズ	28,517	37,042	29.9%	265,490	6.9%

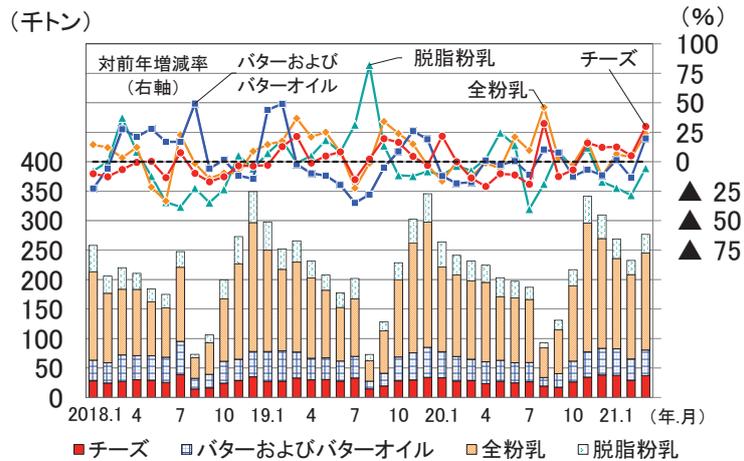
資料：Statistics NZ

注1：製品重量ベース。

注2：脱脂粉乳のHSコードは0402.10、全粉乳は0402.21および0402.29の合計、バターおよびバターオイルは040510と040590の合計、チーズは0406。

注3：年度は7月～翌6月。

図 21 乳製品輸出货量および増減率の推移



資料：Statistics NZ

注1：製品重量ベース。

注2：脱脂粉乳のHSコードは0402.10、全粉乳は0402.21および0402.29の合計、バターおよびバターオイルは040510と040590の合計、チーズは0406。

全粉乳は、16万4603トン（同23.6%増）と前年同月を大幅に上回った。主要輸出先である中国向けが8万3080トン（同39.6%増）、アラブ首長国連邦向けもそれぞれ大幅に増加した。

バターおよびバターオイルも、4万3461トン（同19.8%増）と大幅に上回った。エジプト向けおよび米国向けが大幅に減少したものの、脱脂粉乳と同様に中国向けが1万4445トン（同約2.7倍）と大幅に増加したことから、全体でも大幅に増加した。

チーズは、3万7042トン（同29.9%増）と5カ月連続で前年同月を上回った。主要輸

出先である中国向けが1万807トン（同約2.1倍）と大幅に増加したことから、全体でも大幅に増加した。

### GDT、4月は大きな動きはなし

2021年4月20日に開催されたグローバルデーリートレード（GDT：乳製品の国際価格の指標の一つであるフォンテラ社主催の電子オークション。月2回開催）の1トン当たり平均取引価格は、前回（4月6日）に続き、大きな動きはなかった。（表15、図22）。

現地報道によると、脱脂粉乳は東南アジアやオセアニア地域で需要が減少し、安価な北

表 15 GDT乳製品取引価格（2021年4月20日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

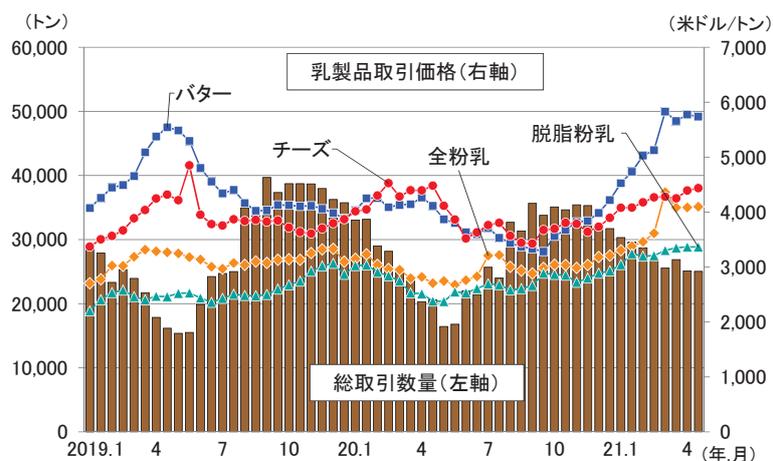
品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,365	37.0	41.4%	▲0.1%
全粉乳	4,097	45.1	51.3%	0.3%
バター	5,736	63.1	39.3%	▲0.7%
チーズ	4,436	48.8	▲1.0%	1.0%

資料：GDT

注1：1米ドル=110円として計算。

注2：前回は4月6日に開催。

図 22 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

米産にシフトしたものの、応札の大部分を占める北アジア<sup>(注)</sup>の需要が堅調であるため、前回比0.1%安の1トン当たり37万円にとどまった。全粉乳は、取引数量が増加したにもかかわらず、中国を中心に北アジアからの応札が増加したため、同0.3%高の同45万1000円とわずかに上昇した。バターについても、取引数量が増加したものの、同0.7%安の同63万1000円と、価格の低下はわずかであった。また、チーズは、北アジア、東南アジア、オセアニアからの応札があり、同1.0%高の48万8000円となった。現地報道

によると、チーズの価格上昇については、応札に比べ取引数量が少なかったためとしている。

中国を中心とした北アジアからの需要は依然として根強く、今後も堅調な需要が見込まれることから、引き続き乳製品国際相場を下支えしていくものと見込まれている。

(注) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

(調査情報部 寺西 梨衣)

# 飼料穀物

## トウモロコシ

### 2020/21年度の世界のトウモロコシ期末在庫量、前月予測からわずかに下方修正されて前年度比6.3%減

2021年4月9日、米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、2020/21年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表16）。

これによると、2020/21年度の世界のトウモロコシ生産量は、前月から74万トン上方修正され、11億3705万トン（前年度比1.8%増、前月比0.1%増）となった。国別に見ると、アルゼンチンやインドネシアで下方修正されたが、EUおよび英国で豊作との予測から30万トン上方修正された。また、米国（3億6025万トン、前年度比4.1%増）およびブラジル（1億900万トン、同6.9%増）では、前年度の生産量を上回り、記録的な生産量となることが見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億8726万トン（前年度比9.0%増、前月比0.4%増）へわずかに上方修正された。国別に見ると、ブラジルで第二期作トウモロコシの作付遅滞や生育不良などによる単収の減少が予測されたもの

の、代替供給元として見込まれる米国で191万トン上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億7998万トン（同8.8%増、前月並み）となった。国別に見ると、バングラデシュで輸入量が増加するなどして10万トン上方修正された。

消費量は、世界全体で11億5619万トン（同1.9%増、前月比0.4%増）へわずかに上方修正され、生産量を1914万トン上回ることでとなった。国別に見ると、ブラジルで50万トン、EUおよび英国で30万トン、それぞれ上方修正された。

期末在庫は、消費量の上積みなどにより世界全体で382万トン下方修正された結果、2億8385万トン（同6.3%減、同1.3%減）と見込まれている。国別に見ると、南アフリカで10万トン下方修正されたほか、アルゼンチンにおける2019/20年度の期末在庫（推計値）が今月において6万トン下方修正されたことを受けて、同量の下方修正がなされた。

表 16 主要国のトウモロコシの需給見通し  
(2021年4月9日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2018/19年度	2019/20年度 (推計値)	2020/21年度		
			(3月予測)	(4月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	54.37	56.41	48.76	48.76	▲ 13.6%
生産量	364.26	345.96	360.25	360.25	4.1%
輸入量	0.71	1.06	0.64	0.64	▲ 39.6%
消費量	310.45	309.51	305.45	307.35	▲ 0.7%
輸出量	52.48	45.17	66.04	67.95	50.4%
期末在庫	56.41	48.76	38.15	34.34	▲ 29.6%
アルゼンチン					
期首在庫	2.41	2.37	3.67	3.62	52.7%
生産量	51.00	51.00	47.50	47.00	▲ 7.8%
輸入量	0.00	0.00	0.01	0.01	-
消費量	13.80	13.50	15.00	14.50	7.4%
輸出量	37.24	36.25	34.00	34.00	▲ 6.2%
期末在庫	2.37	3.62	2.18	2.12	▲ 41.4%
ブラジル					
期首在庫	9.32	5.31	4.79	5.23	▲ 1.5%
生産量	101.00	102.00	109.00	109.00	6.9%
輸入量	1.66	1.65	1.50	1.50	▲ 9.1%
消費量	67.00	68.50	70.00	70.50	2.9%
輸出量	39.66	35.23	39.00	39.00	10.7%
期末在庫	5.31	5.23	6.29	6.23	19.1%
ウクライナ					
期首在庫	1.57	0.89	1.48	1.48	66.3%
生産量	35.81	35.89	29.50	29.50	▲ 17.8%
輸入量	0.04	0.03	0.02	0.02	▲ 33.3%
消費量	6.20	6.40	6.10	7.10	10.9%
輸出量	30.32	28.93	24.00	23.00	▲ 20.5%
期末在庫	0.89	1.48	0.89	0.89	▲ 39.9%
中国					
期首在庫	222.53	210.16	200.53	200.53	▲ 4.6%
生産量	257.17	260.78	260.67	260.67	▲ 0.0%
輸入量	4.48	7.60	24.00	24.00	3.2倍
消費量	274.00	278.00	289.00	289.00	4.0%
輸出量	0.02	0.01	0.02	0.02	2.0倍
期末在庫	210.16	200.53	196.18	196.18	▲ 2.2%
世界計					
期首在庫	340.97	321.07	303.13	302.99	▲ 5.6%
生産量	1,124.92	1,116.52	1,136.31	1,137.05	1.8%
輸入量	164.42	165.36	179.94	179.98	8.8%
消費量	1,144.82	1,134.60	1,151.77	1,156.19	1.9%
輸出量	181.71	171.72	186.55	187.26	9.0%
期末在庫	321.07	302.99	287.67	283.85	▲ 6.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

## 2020/21年度の米国トウモロコシ期末在庫率、10%割れの低水準

2021年4月9日、USDA/WAOBは、2020/21年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、米国のトウモロコシ需給見通しは、次の通りである（表17）。

国内生産量は1月以降変更がなく、141億8200万ブッシェル（3億6024万トン<sup>注</sup>）、前年度比4.1%増、前月同）と予測された。

国内消費量は、食品・種子・その他工業向け（エタノール向けを含む）が前年度比1.8%増と上方修正され、全体では121億ブッシェル（3億735万トン、同0.7%減、前月比0.6%増）と予測された。

輸出量は、中国向けの輸出量増加などが見込まれることから、26億7500万ブッシェル（6795万トン、同50.4%増、同2.9%増）へわずかに上方修正され、記録的な輸出量に

なることを見込んでいる。

期末在庫は、国内消費量が上方修正されたことから、13億5200万ブッシェル（3434万トン、同29.5%減、同10.0%減）と予測された。その結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は9.2%（同4.5ポイント減、同1.1ポイント減）と予測され、干ばつの影響により生産量が大幅に減少したことで期末在庫率が1桁まで低下した2013/14年度（期末在庫率9.2%）以来の低水準となる見通しである。

また、生産者平均販売価格も前月と変わらず、1ブッシェル当たり4.30米ドル（473円。1キログラム当たり18.6円：1米ドル＝110円）と予測された。

（注） 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

表17 米国のトウモロコシの需給見通し  
（2021年4月9日米国農務省公表）

区分	—単位—	2018/19 年度	2019/20 年度 (推計値)	2020/21 年度		
				(3月予測)	(4月予測)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.9	89.7	90.8	90.8	1.2%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	81.3	82.5	82.5	1.5%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.4	167.5	172.0	172.0	2.7%
国内生産量	(百万ブッシェル)	14,340	13,620	14,182	14,182	4.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	42	25	25	▲40.5%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,140	2,221	1,919	1,919	▲13.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,509	15,883	16,127	16,127	1.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,222	12,185	12,025	12,100	▲0.7%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,429	5,897	5,650	5,700	▲3.3%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,793	6,287	6,375	6,400	1.8%
エタノール向け	(百万ブッシェル)	5,378	4,857	4,950	4,975	2.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,066	1,778	2,600	2,675	50.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,288	13,963	14,625	14,775	5.8%
期末在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,502	1,352	▲29.5%
期末在庫率	(%)	15.5	13.7	10.3	9.2	4.5ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.61	3.56	4.30	4.30	20.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部 水野 崇）

## 大豆

### 2020/21年度大豆期末在庫量、前年度比9.9%減と前月から2.9ポイント回復

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年4月9日、「Oilseeds: World Markets and Trade」において、2020/21年度の世界の大豆需給予測値を、また同日、米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は、2020/21年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値をそれぞれ更新した。

これによると、2020/21年度の世界の大豆生産量は、全体で137万トン上方修正され、前年度比7.1%増の3億6319万トンとかなりの程度増加すると見込まれている（表18）。なお、EU・英国およびパラグアイは、今回下方修正された。国別では、最大の生産国であるブラジルが、今回単収の増加により200万トン上方修正され、同5.8%増の1億3600万トンと2019/20年度（1億2850万トン）に続き過去最多を更新すると見込まれている。これは、天候の影響により播種および収穫が大幅に遅れたものの、好調な大豆価格を背景として作付面積が過去最高となるとともに単収も前年度を上回るためとみられる。また、アルゼンチンは、乾燥気候などの影響により前回まで繰り返し下方修正されたが、今回は変更なく同2.7%減の4750万トンと見込まれている。

輸出量は、全体で119万トン上方修正され、前年度比3.6%増の1億7091万トンと見込まれている。国別では、ブラジルが、生産量の増加を背景として100万トン上方修正され、同6.7%減の8600万トンと見込まれている。天候の影響で収穫が遅れ2月の輸出量は少なかったものの、3月は1350万

トンと記録的な輸出量となり、2～3月の輸出量は前年同期を上回った。また米国は、81万トン上方修正され、同35.6%増の6205万トンと前年度を大幅に上回ると見込まれている。これは中国向け輸出量が増加したためであり、特に年度前半は記録的な輸出量となった。一方輸入量は、全体で86万トン上方修正され、同1.7%増の1億6776万トンと見込まれている。国別では、中国が1億トンと世界全体の約6割を占めている。

消費量（搾油仕向量）は、全体で111万トン下方修正され、前年度比3.5%増の3億2247万トンと見込まれている。国別では、中国が搾油量の減少により200万トン下方修正されたものの、アフリカ豚熱により減少した豚飼養頭数の回復が進むことで飼料用大豆かすを確保する必要があることから、同4.9%増の9600万トンと前年度をやや上回っている。

期末在庫は、年度当初から下方修正が続いたが、前回より313万トン増と2カ月連続で上方修正され、2.9ポイント回復し前年度比9.9%減の8687万トンとなることが見込まれている。国別では、中国が搾油量の減少により200万トン上方修正され、同17.9%増の3160万トンと見込まれている。ブラジルは、生産量の増加等により89万トン上方修正され、同5.5%増の2189万トンと見込まれている。また米国は、前回からの修正はなく同77.2%減の325万トンと大幅に前年度を下回っており、2013/14年度以来最低の水準となることが見込まれている。

表 18 主要国の大豆需給見通し  
(2021年4月9日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2018/19年度	2019/20年度 (推計値)	2020/21年度		
			(3月予測)	(4月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
生産量	120.52	96.67	112.55	112.55	16.4%
輸入量	0.38	0.42	0.95	0.95	126.2%
消費量	56.94	58.91	59.87	59.60	1.2%
輸出量	47.68	45.78	61.24	62.05	35.6%
期末在庫	24.74	14.28	3.25	3.25	▲77.2%
ブラジル					
生産量	119.70	128.50	134.00	136.00	5.8%
輸入量	0.14	0.55	0.40	0.55	0.0%
消費量	42.53	46.00	46.50	46.75	1.6%
輸出量	74.89	92.14	85.00	86.00	▲6.7%
期末在庫	32.47	20.74	21.00	21.89	5.5%
アルゼンチン					
生産量	55.30	48.80	47.50	47.50	▲2.7%
輸入量	6.41	4.88	4.70	4.70	▲3.7%
消費量	40.57	38.77	40.20	40.50	4.5%
輸出量	9.10	10.00	7.00	6.85	▲31.5%
期末在庫	28.89	26.70	24.50	24.35	▲8.8%
中 国					
生産量	15.97	18.10	19.60	19.60	8.3%
輸入量	82.54	98.53	100.00	100.00	1.5%
消費量	85.00	91.50	98.00	96.00	4.9%
輸出量	0.12	0.09	0.10	0.10	11.1%
期末在庫	19.46	26.80	29.60	31.60	17.9%
世界計					
生産量	361.04	339.00	361.82	363.19	7.1%
輸入量	145.88	164.97	166.90	167.76	1.7%
消費量	298.55	311.45	323.58	322.47	3.5%
輸出量	148.83	165.05	169.72	170.91	3.6%
期末在庫	114.48	96.38	83.74	86.87	▲9.9%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部 井田 俊二)